

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の状態判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	◎	－	－	－
(四国)	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・中東情勢の影響はあるが、国内観光客やインバウンドにより、にぎわっているため、その影響は少ないとみられる。また、飲食を中心に売上が増加している。
	○	一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・季節イベント商品の売行きが好調である。母の日商品は4月中旬から5月末まで長期間売れ、販売量も増加した。
	○	家電量販店（副店長）	販売量の動き	・エアコンの新たな省エネ基準に関する報道が増加し、販売数が200%を上回って推移している。
	○	その他専門店〔酒〕（経営者）	お客様の様子	・様々な商品価格が上昇傾向にある。客はその傾向を注視しており、値上げ前購入の動きがみられるなど、対象商品の売上が増加している。
	○	その他小売〔ショッピングセンター〕（館長）	来客数の動き	・3か月前の来客数は前年比110%程度で好調だったが、今月は115%程度で推移している。近隣のコンベンションによって県外からの客の増加傾向は継続しており、土産や飲食店が好調である。サービス業態も足元客が増加し、売上が好調である。
	□	商店街（代表者）	それ以外	・地域の再開発が、ようやく形を見せ始めた。郊外志向の影響で、食の量販店が消え、食料難民になっている中心市街地に、食料店が再興できるかが大きなポイントになっている。
	□	商店街（常務理事）	来客数の動き	・インバウンドを含む若年層中心の観光客が増加しており、街には活気やにぎわいがある。しかし、需要は専ら飲食や名物の食品、土産物が中心のため、多くの物販店は前年売上をキープするのが精いっぱいである。
	□	一般小売店〔酒〕（経営者）	お客様の様子	・商品価格の上昇が継続しているため、買い控えをし、購入に消極的である。
	□	スーパー（店長）	お客様の様子	・前年と比較して、来客数、買上点数、単価に変化がみられない。
	□	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・ゴールデンウィークの売上は計画どおりに推移した。一方で、消費者の節約志向は依然として強く、買上点数等については減少傾向にある。
	□	スーパー（企画担当）	単価の動き	・商品単価の上昇が継続している。今後、包材関係の値上げによって生鮮食品の値上げが発生し、それが継続するとみられる。
	□	スーパー（財務担当）	来客数の動き	・ポイント強化日や特売日に来店が集中している。平時は、ディスカウントストアへ流れている。
	□	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・ゴールデンウィークは好調な滑り出しとなり、期間全体でも前年をやや上回る水準で推移した。例年はこの期間が終わると急速に売上が減少するが、今年は天候や気温に恵まれたお陰で辛うじて例年を上回った。ただし、全体で見ると、力強さには欠けている。
	□	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・来客数が少なく、客単価も上昇しない状態が継続している。物価高が継続しているため、衣料品に余り金は使わないとみられる。
	□	衣料品専門店（営業責任者）	来客数の動き	・売上は前年並みで推移しているが、来客数が減少している。価格の上昇に伴い購買意欲がやや低下しているようにみられる。
	□	乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・人気車種の再販売があり、単月で見れば受注台数が増加した。
	□	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・3月辺りからその兆しはあったが、今年度初めて前年を下回った。来客のない日がみられるようになった。
	□	観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・宿泊人数は前年より若干増加し、単価も上昇したため、売上は117%と好調を維持している。
	□	都市型ホテル（経営者）	販売量の動き	・中東情勢の影響で、景気が見通せないままである。
	□	タクシー運転手	お客様の様子	・昼夜ともに客の実車率は悪く、3割強程度である。タクシーの稼働率も悪く、平日は3割程度、休日は6割程度である。

	通信会社（営業部長）	来客数の動き	・例年消費が冷え込む時期であり、来客数は前年同月比で減少しているものの、売上は計画を上回って推移しており、全体としては前年並みとみている。	
	観光遊園地（主幹）	来客数の動き	・来客数の前年同期比の推移に大きな変化はみられない。	
	美容室（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク明けから来客数が少なめである。	
	設計事務所（所長）	単価の動き	・単価は相変わらず上昇傾向にあるが、景気が良いという感覚はない。	
▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・中東情勢の影響により、原料の値上げや材料入荷の遅れ等による製品の不足状態が続いている。客の購買意欲も減退気味で、動向も鈍い。	
▲	一般小売店〔文具店〕（経営者）	来客数の動き	・仕入れをしている品物の中に、石油関連原材料を使用した商品の入荷が滞っており、その影響で売上が減少している。一方、それ以外の商品については、例年並みで推移している。	
▲	百貨店（企画担当）	お客様の様子	・客は、必要なことには金を掛けるが、不要な部分は支出を抑えている。特に日用品に関しては、支出が抑えられている。	
▲	スーパー（統括担当）	単価の動き	・買上単価が低下傾向にある。年金収入だけでは生活が厳しいという声も聞かれる。	
▲	コンビニ（店長）	来客数の動き	・売上、来客数の減少傾向が続くなかで、ゴールデンウィーク以降の減少は例年以上である。	
▲	コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数の減少が止まらない。	
▲	コンビニ（総務）	販売量の動き	・売上は前年比100%超だが、3か月前と比較するとやや鈍化している。また、現時点での来客数は前年比100%をキープしているが、予断を許さない。	
▲	家電量販店（店員）	販売量の動き	・商品を見に来る人数は増えているが、検討するのみで購入を見送るケースが多く、販売量が減少している。	
▲	乗用車販売店（役員）	それ以外	・中東情勢の影響により、原油関係の品物不足事象が発生してきている。	
▲	その他飲食〔ファーストフード〕（経営者）	来客数の動き	・物価高騰で外食に掛ける費用を絞っているとみられ、来客数が減少傾向にある。	
▲	美容室（経営者）	来客数の動き	・物価高の影響がある。また身近な人たちからは、備品が入ってこないで仕事ができないという話を聞く。	
×	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・店頭売上、外商売上共に非常に悪い。外商売上は、前年と比べて件数も金額も大きく落ち込んでいる。	
×	コンビニ（商品担当）	単価の動き	・中東情勢の影響により、ナフサを原料とする品物の価格が上昇している。コンビニエンスストアの商品包材にも影響が多く出ており、夏以降、販売価格に転嫁する可能性がある。	
◎	—	—	—	
企業 動向 関連 (四国)	○	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・春から夏にかけて繊維雑貨は受注が増加する時期であり、加えてインバウンド需要が旺盛である。また、国内景気が上向いているとみる小売店が多く、積極的に店頭での催事等に取り組んでいる。
	○	木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・受注量が大幅に減少している。中東情勢の影響からナフサ関連資材の入荷が遅れ、現場工事の進捗が遅れている。6月後半には、工事が止まる現場が出るとの情報がある。
	○	化学工業（所長）	受注価格や販売価格の動き	・中東情勢の影響によるナフサ不足から、価格上昇と受注量の増加が顕著である。ただし、需要増加ではなく先食いとみられ、長期的に景気が良くなっているとは判断できない。
	□	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・受注量は、産業機械は低調だが造船関係は上向きのため、全体で見ると大きな変動はない。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・公共工事はあるが、なかなか受注にはつながらない。
	□	輸送業（経営者）	取引先の様子	・中東情勢の影響の見通しがたたない。

	□	通信会社（総務担当）	受注量や販売量の動き	・販売計画に対して、上振れも下振れなく想定どおりの水準である。
	□	金融業（副支店長）	取引先の様子	・客の受注状況等に、それほど大きな変化はみられない。
	▲	食料品製造業（商品統括）	それ以外	・一般品や食品の価格上昇は想定されていたものの、ナフサ不足による一層の価格上昇が全業種で発生する可能性がある。消費の冷え込みや、買いたい物が買えない状況につながるとみられる。
	▲	電気機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・物価高の影響で、採算確保が難しい。
	▲	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・資材の調達が厳しくなっており、契約合意ができない。
	▲	通信業（企画・売上管理）	受注量や販売量の動き	・2～3月が繁忙期だったこともあるが、それを考慮しても今月は受注量が少ない。
	▲	不動産業（経営者）	取引先の様子	・地元中小住宅販売・建築・土地分譲業者や全国展開している大手業者とも取引や情報交換があるが、成果の出ている業者は大手が多く、地元中小は厳しい。
	▲	税理士事務所	取引先の様子	・物価の上昇や人件費の高騰など経費面の上昇が続いているが、上昇分を販売価格に転嫁できず、利益率が低下している。
	×	広告代理店（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・ほぼ毎月、何らかの資材価格が上昇し続けている。
雇用 関連	◎	—	—	—
	○	—	—	—
(四国)	□	人材派遣会社（総務部長）	求職者数の動き	・求職者の動向による。
	□	人材派遣会社（オフィス責任者）	求人数の動き	・求人数は少しずつ増加傾向にあるが、時期的に増えるタイミングのため例年どおりである。
	▲	求人情報誌（営業）	周辺企業の様子	・県内の製造業や建築関連業界では、中東情勢の影響を受けたシンナー、塗料不足、潤滑油関連の不足、価格上昇によって、先行き不透明な状況である。在庫で賄っている企業もあるが、原材料費の上昇に苦しむ企業が増えている。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・価格の上昇の影響もあって、住宅メーカーなどを中心に広告が鈍化している。民間企業は自社メディアを使う傾向を更に強め、広告費を削減している。
	×	職業安定所（求人開発）	それ以外	・定期購入していた商品価格が上昇している。スーパーで安売りの商品が短時間で完売している。